

鳥とインフルエンザ

新潟県立看護大学 生物・医学領域教授

境原 三津夫

桜が咲き始め、やっと春が来ると思った矢先、なんと20年ぶりにインフルエンザを発症しました。学校保健安全法施行規則では、発症後5日＋解熱後2日を経過するまでは出席停止と決められています。私もそれにならって1週間自宅軟禁を余儀なくされました。

さて、平成28年11月に上越市の養鶏場のニワトリが大量に死んでいるのが見つかり、検査の結果、H5型の鳥インフルエンザウイルスが検出されました。鳥インフルエンザウイルスは鳥の腸に住み着いて、普段は鳥と仲良く暮らしています。このH5型ともう一つH7型と呼ばれている

ウイルスは強毒化することがあり、仲良しの鳥も殺してしまいます。鳥インフルエンザウイルスは鳥の間で感染を繰り返していますが、時に人にも感染するよう変化することがあります。このため殺処分の作業をする人は防護服を着て、ウイルスに暴露しないよう注意して作業を行いました。

人への感染能力を獲得する前にウイルスをすべて殺す必要があり、そのために養鶏場のニワトリを大量に殺処分しなければなりません（他の養鶏場への感染拡大を予防するという意味もあります）。日本ではまだ強毒化した鳥インフルエンザウイルスが人へ感染

した例はありませんが、世界的にみると鳥から人への感染例があります。もし、強毒化した鳥インフルエンザウイルスが鳥から人、さらに人から人への感染能力を獲得すると、世界的な大流行が起こり、多数の死亡者がでると考えられています。

さて、上越市には上越市立水族博物館があり、マゼランペンギンを日本で一番多く飼育しています。今回の養鶏場の鳥インフルエンザの発生にともない、マゼランペンギンは屋内に避難することを余儀なくされました。4月になり、やっと屋外に出してもらったペンギン達の喜ぶ姿がテレビのニュースで紹介されていました。鳥インフルエンザ騒動で「ペンギンも長い間外に出られなくて大変だったね」と

ペンギンのことを思うより先に、「ペンギンも鳥だったんだ」と驚いている自分がいて、ニュースを見ながら自分に喝をいれました。上越市立水族博物館は新築のため現在休館中ですが、新館がオープンしたら水中を飛ぶマゼランペンギンに会いに行こうと思います。

